

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表									
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

法人名	社会福祉法人 松涛会	代表者	斎藤 妙子	法人・事業所の特徴	・複合施設になっていて他部署との協力体制ができている。 ・安岡病院、山の田内科が協力病院として緊急時等の受診などの連携ができている。 ・施設内は安心して過ごしてもらえるよう家庭的な雰囲気を作るように心掛け、不安や心配事を訴えてくる利用者様には、個別に対応をしている。 ・利用者本位の柔軟な対応に心掛け、緊急な泊りなど家族の要望の受け入れをしている。
事業所名	小規模多機能 フォイ`金比羅	管理者	野村 恵美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
			2人		1人	1人		5人		9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・今後も事業所自己評価の改善計画を基に、より良い事業所となるように改善に向け全職員で取り組み、個々が自己研鑽をして行く。 ・職員や利用者家族、見方や意見の違いもあるため送迎時なども活用し個別に意見を聴取する時間を設け、「できていない」の項目が少しでも「できている」に変えられるよう努力をして行く。	・継続し事業所自己評価を基に、利用者のケアに対する細かな事柄や職員間での統一すべき情報について日々のミーティングや職員会議を通じ共通認識を持つようにした。又、各々が介護技術の向上に努め、業務に携わるように心掛けた。 ・個別に聞き取りをする事で、見方や見解の違いがある事がよく解った。その内容を会議等で再度話し合い、皆で周知する事が出来た。	* 地域住民の意見 ・いろいろ大変な業務の中で細かな工夫がされている事は伝わります。 よくできているに○がつけられるように、できていないにつけた職員が少しずつでも減るように今後も継続して頑張っていたきたい。	・事業所自己評価の改善計画について、ミーティングや職員会議を通じ周知し、職員全体で統一した取り組みを行えるようにする。 又、利用者個々の生活環境等些細な事柄から情報共有を図り、理解を深めより良いケアに繋げていく。 ・自己評価の際に共通した解釈が行えていない部分があったため、補足をつけるなど評価しやすい環境を整える。
B. 事業所のしつらえ・環境	・以前のように地域の方が施設に来る機会が増えてきている。 引続き、施設周辺の交通ルールも遵守し来訪した方が居心地が良い、親しみやすいと感じてもらえるような環境作りに努める。 四季に応じ玄関先やフロア内の飾りつけも継続して利用者と一緒に行っていく。	・行事や面会など、以前より施設を訪れる方が増えている。送迎時・家族には施設から出る際の左折での出庫も知らせ、交通ルールを守れている。 来訪者がいる場合は、こちらから先に挨拶するなど来た方が訪れ易いと思えるように声掛けを行っている。フロアでは季節事の飾り付けを利用者と共に行い季節感を感じてもらえるようにしている。	* 事業所職員の意見 ・面会の緩和もあり、昨年よりも施設へ来られる方が増えています。 利用者や近隣住民の方が安心出来る、来やすいと思ってもらえる環境であると良いですね。	・引き続き、送迎時や来訪された方へ施設周辺の交通ルールについて説明し遵守していく。 又、温かみのある家庭的な雰囲気を大事にし清潔で過ごし易い環境作りに努める。 事業所内の飾りつけなども工夫し、季節にあった居心地の良い空間作りをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	・継続し、運営推進会議や地域密着委員会も活用し感染対策に考慮しながら、地域の方との関わりを深め協力して行事を開催して行く。 又、インターネット等から地域でのイベントの情報収集も行い、こちらから地域へ出向く機会も増やせるようにする。	・運営推進会議や地域密着委員会を通じ、活用品バザーや海峡花火大会での施設の解放、地域のこども園との交流など地域の方と関わる機会が増えている。 コロナウイルスの緩和もあり、オレンジカフェへの参加等コロナ渦に参加が出来なかったイベントにも行く事が出来ている。	* 事業所職員の意見 ・地域密着委員会を中心として地域との交流が広がっていると思う。開設当時に比べると地域に根ざしてきたと感じます。イベントだけでなく普段から近隣の方と挨拶を交わすなど何気ない関りも大切だと思います。	・今後も運営推進会議や地域密着委員会を活用し、行事などを通じ地域の方との関係性の構築に努めて行く。 継続し送迎時等、地域の方にこちらから積極的に明るい挨拶をおこなう事を心掛け、事業所への明るい印象を持ってもらえるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・継続し、運営推進会議や地域密着委員会も活用し感染対策に考慮しながら、地域の方との関わりを深め協力して行事を開催して行く。 コロナ等の感染状況を確認しながら外出行事なども企画実施し、利用者の楽しい、～したいといった意欲をひきだす機会も増やしていく	・運営推進会議や地域密着委員会を通じ、活用品バザーや海峡花火大会での施設の解放、地域のこども園との交流など地域の方と関わる事が出来ている。 日々のレクリエーションや外出行事でも地域のお店を利用するなど、関りを深められるように努力している。	* 地域包括の意見 ・地域との関係性については今後も継続して少しずつ進めていくことしかないと思います。 * 事業所職員の意見 ・高齢者施設である限り、感染対策への配慮は必要です。世の中の流れに合わせながらも注意しなければならず難しいですね。	・今後も感染対策に配慮しながら運営推進会議や地域密着委員会を活用し、行事などを通じ地域の方との関係性の構築に努めて行く。 地域行事への参加や散歩やドライブなど利用者と共に地域に出向く機会を設ける。 利用者の馴染の店での買い物や受診介助の付き添い等、住み慣れた地域での暮らしを支えていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・継続し、運営推進会議や地域密着委員会も活用し感染対策に考慮しながら、地域の方との関わりを深めていく。 イベント等で交流を深めるだけでなく、今後も挨拶など些細な事柄も続けていき、地域の方から必要とされる事業所を目指す。	・運営推進会議や地域密着委員会を活用し、活用品バザーや海峡花火大会での施設の解放、地域のこども園との交流など地域の方と関わる事が出来ている。 近隣住民と会う機会がある時は、こちらから挨拶を行うなど地域との関係を育めるよう継続し取り組んだ。	* 地域住民の意見 ・コロナ渦からなかなか外に出向く事態が億劫になっているのでは。 イベントなどまた出来たら良いですね。 * 事業所職員の意見 ・いまだ感染対策は必要ではありますが気を付けながら、近隣住民との交流は大事にして行なって下さい。	・今後も感染対策に配慮しながら運営推進会議や地域密着委員会を活用し、行事などを通じ地域の方と連携を図り関係性の構築に努めて行く。 イベントだけでなく些細な関りも大事にし、近隣住民とコミュニケーションを取り繋がりを深められるよにしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	・今後もイベントや避難訓練など、地域の方へ回覧板も活用し参加の呼びかけをして行く。 誰でも気軽に参加がしやすい様に、引き続き事業所の情報発信等、アプローチをしていき地域との協力体制を築いていく。	・継続しイベントや避難訓練等、回覧板を活用し地域の方に参加の呼び掛けを行った。 又、ホームページも活用し行事の紹介等を発信しアピールを続け、挨拶等現状で出来る事を行い関係性を築けるようにしている。	* 事業所職員の意見 ・以前のように、施設へ来訪する方が増えてきています。今後も地域の方へ事業所を知っていただく努力を続けて行く事が不可欠だと思います。	・引き続き避難訓練や施設行事の情報を回覧板などから地域の方へ知らせ、参加のお願いをしていく。 BCPや事業計画に基づき、勉強会も開催し個々が防災管理に対する理解や知識を深めていく。 地域に必要とされる事業所を目指し、事業所の情報発信も引き続き行っていく。